

組合員との「絆」を最重視した農協運営

あいら農協(鹿児島県)

取組の概要

- 職員間の情報共有と職員研修を行った上であらゆる機会を通じた組合員との対話を実施。
- 組合員からの意見・要望に対しては、直接回答やきめ細かな広報誌等によるフィードバック。
- 取組の結果、農協に対する組合員の評価結果(アンケート調査)はほとんどの項目が高得点。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 全戸訪問活動を中心として、様々な機会を通じて組合員と対話

- ① 平成25(2013)年度から全職員による**組合員への全戸訪問**を実施。毎月第2土曜日の午前中に、基本的に2人1組で各組が約80世帯を担当し、**事前に訪問テーマを決めた上で**、各世帯に年3、4回訪問。訪問結果は農協内で共有。
- ② このほか、「組合員・認定農業者と語る会」、TAF(農家対策特別班)巡回、各種組合員組織の総会など、あらゆる機会を通して組合員と対話。
- ③ **対話の趣旨を共有するための職員全体研修会や夜間塾の開催など職員教育も充実。**

2 組合員からの意見・要望に、直接回答やきめ細かな広報誌等によりフィードバック

- ① **組合員から出された意見・要望については、対応状況を直接回答するとともに公開。**
「要望を踏まえて改善したもの」、「現在取り組んでいるもの」、「今後検討するもの」、「要望に応えられないもの」に区別して一つ一つに丁寧に応えることで、組合員の理解を促進し、更なる対話の推進につながっている。
- ② コミュニティ誌や地域貢献活動をまとめた冊子、漫画で農協や組合員の役割について解説するパンフレット等の作成、LINE・Facebookを通じた発信など**様々な媒体による広報活動も展開。**

3 多種多様な取組を同時並行で実施

- ① 平成28(2016)年に**組合長直轄の「経営企画室」を設置し、機動的に取組を実施するための体制を整備。**
- ② その上で、6次産業化商品開発、販売力強化に向けた**地元商工会議所、商工会や大学等との包括連携協定締結、管内農畜産物の販売促進等、農業所得の向上を図る取組を同時並行的に展開。**

農協のメリット・農家のメリット

農協組合員を対象としたアンケート調査において、組合員からの同農協の取組に対する評価は、ほとんどの項目が全国平均より高くなっている。

		意識点			行動点								合計
		親しみ	必要性	理解	事業利用			へ J 組合員の参加	組合員の加入	組合員の反映	へ J 組合員の参画		
					営農	共済用	生活						
正組合員	あいら農協	7.2	7.6	5.4	4.9	5.1	5.4	4.7	4.8	4.7	5.5	55.3	
	全国平均	6.4	6.5	4.9	3.3	4.5	3.0	5.1	4.3	4.2	5.1	47.5	
准組合員	あいら農協	7.2	6.9	5.0	1.7	3.9	4.2	3.0	1.9	1.3	1.2	36.2	
	全国平均	6.4	5.9	4.3	1.2	3.6	2.7	4.0	1.7	0.7	1.0	31.8	

(一社)JC総研監修により平成29(2017)年に実施したアンケート調査。

正組合員1,000名、准組合員2,000名を対象に実施。回答率は正組合員48.3%、准組合員33.0%。